

一仏両祖の教えを今に伝える

平成11年12月24日第三種郵便物認可(毎年1,3,6,9月の1日発行)平成31年1月1日発行 第147号

# 曹洞禅グラフィック

SŌTŌZEN GRAPHICS

2019 冬号 No.147

駒澤大学 長谷部八朗学長インタビュー  
仏教の精神を学んだ人材を世界に  
輩出することが駒澤大学の使命です

[司会] 藤木隆宣

# 平成三十一年 迎春

# 喜心

總持辰三叟



## 平

成三十一年(二〇一九)の新春を迎え、謹んで

皆様のご多祥をお祈りいたします。

本年は、大本山總持寺独任第四世 中興石川素童禪師様の百回御遠忌奉修の年にあたります。

大火災後の能登總持寺の伽藍復興、能登から横浜鶴見への本山移転、移転後の伽藍建築等の大事業は、石川禪師様の不惜身命のご尽力があつてこそ、はじめて成し遂げられたことでもあります。

禪師様は、法系の上で私の三代前の師僧でもあり、本年

## 喜心

御遠忌をお勤めさせていただくことの喜びを、心奥より感じております。

そのような思いから、年頭に際し「喜心」と示しました。私たちが保持すべき三心(喜心、孝心、大心)の中で、最初に挙げられるのが「喜心」です。

人間として生まれてきたことを喜び、新しい年をお迎えたことを喜び、そして仏

曹洞宗管長  
大本山總持寺貫首

江川辰三

えがわしんざん



様のみ教えに出逢えたことを喜びます。

その喜びが、自分だけではなく、周りの人々をも次第に明るくしていきます。とても大切なことであると思います。皆様にとって、本年が素晴らしい一年であることを重ねて祈念申し上げます。

## 明

けましておめでとうございます。

大気さわやかな新年を迎えました。今年こそこの静謐が続きますよう念じて止みませ

ん。  
然りながら無常迅速の世であれば、様々事象が現れるのも世の道理であることも事実です。昨年は豪雨による河川の氾濫や土石流による風水害が発生し数多くの被災者が出ました。また、大阪地震、北海道胆振東部地震によって大地は鳴動し、被災者を生じることになりました。改めて追悼しお見舞いを申し上げます。

近年、地球規模による気候の変動に起因し、従来では考

## 慈愛

えることの出来なかった自然災害が続発しております。大  
自然の猛威の前に人間は為す術もなく、立ち尽くしてしまいがちであります。このいのちの危機の時代を乗り越えて進んでいくには、現状を正しく見極める「智慧」と生きとし生けるもののいのちを慈しむ「慈愛」の心が必要であります。事象にあたってはともすれば傍観者のようになってしまいがちになりますが、他者の

痛みをわが身に引き充てること  
とが仏者のありようでしょう。そこにあるのは、全てのいのちに「慈愛」の心で寄り添うことです。

永平寺御開山道元禪師の御教えに基づき菩薩行の仏道を実践し、無事これ好日好年となることを念頭に祈念いたします。

# 慈愛

永平諦法



大本山永平寺貫首

福山諦法

ふくやまたいぼう







# 子どもへの

## 〈素朴な

## まなざし〉を

### 想う

増山均

早稲田大学名誉教授

教育学・社会福祉学者。  
1948年栃木県生まれ。  
日本福祉大学社会福祉学  
部教授、早稲田大学文学  
学術院教授を経て、早稲  
田大学名誉教授。『アニ  
マシオンと日本の子育て  
て・教育・文化』子育て支  
援の『フィロソフィア』な  
ど多数の著書がある。

### 親父の 少年時代は

子どもの騒ぎ声が「デシベ  
ル」という数値で測られ、騒音  
かどうかを判定される時代とな  
ったことを前回紹介したが、子  
どもが育つ地域の風景、大人の  
〈まなざし〉は大きく変わった。  
たしかに、一昔前の地域の風景  
とはあまりに対照的である。遠  
藤ケイは『親父の少年時代』（か  
や書房、一九八一年）の中で、自  
らの少年時代（一九五〇年代）を  
克明にたどりながら次のように  
記している。「家からあふれ出  
したこどもたちは、狭い路地に  
たむろし、ペーゴマやビーダマ、  
パッチ（メンコ）からゴロベース  
などの野球までやり、路地には  
いつも元気な歓声が響いていた。  
『赤ん坊が寝つかねえから静か  
に遊べや』ときには、窓からど  
なられることはあっても、路地  
から締め出しをくらうことはな  
かった」と。大人たちが地域の  
子どもたちに注ぐ〈まなざし〉  
は、たとえ悪ガキに対しても寛



挿絵 / 長谷川葉月

容だったのである。

### 「日本は子どもの 天国」だった？

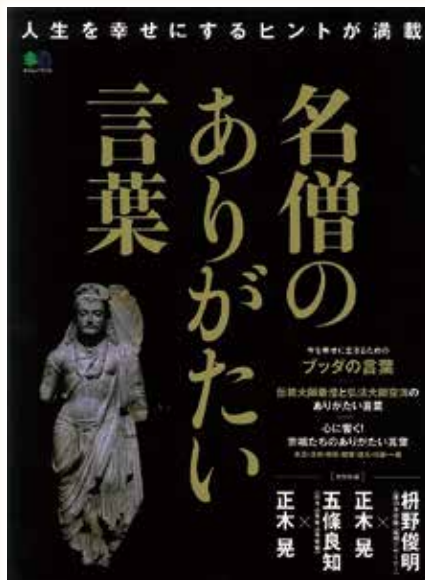
さらにそれより一五〇年前、時代を明治の初年  
までさかのぼると、「日本は子どもの天国」だと  
外国人が驚くほどの国だったのである。エドワー  
ド・モースは、その日記に書いている。「いろい  
ろな事柄の中で、外国人が異口同音に指摘するこ  
とが一つある。それは日本が子供たちの天国（パ  
ラダイス）だということだ。日本の子供たちは親  
切に扱われるだけでなく、他のどの国の子供たち  
よりも多くの自由をもち、それを濫用することな  
く、より多くのさまざまな喜ばしい体験をもつて  
いる。罰もなく、咎めもなく、叱られることもな  
くガミガミ小言をいわれることもない。日本の子  
供が受ける寵愛と特典を考えると、確かに彼らは  
甘やかされて駄目になってしまいそうに思えるが、  
とんでもない。日本の子供ほど両親を敬愛し、老  
人を尊敬するものは世界中どこを探してもいない。  
汝の父と母を敬え―これは日本人に深くしみこん

ーン（小泉八雲）など幕末から明治初年に来日した  
何人もの外国人が、共通に日本人の子育てと子ど  
もに注ぐ〈まなざし〉を評価していたのである。

### 素朴な子育てへの まなざしを想う

時あたかも明治維新から一五〇年、日本の近代  
化は日本人の子育ての〈まなざし〉に何をもちた  
したのか？ 教育制度が確立し、医療や保健や児  
童福祉制度も整い、子どもに与える豊かな文化が  
準備されてきた歩みは、乳幼児や子どもの死亡を  
少なくし「安全・安心」の子育て環境を整える上  
で大きな進歩といえるのだろうか、子どもに注ぐ  
〈まなざし〉は果たして豊かになって来たのだろ  
うか。子どもを人材として期待し、子どもを教育  
して、少しでも「良く」・「正しく」育てようとす  
る意識などなく、大人たちと子どもたちが地域社  
会の中でともに暮らし、「地域の子」として皆で  
見守り育てていた時代の、子どもたちへの〈素朴  
なまなざし〉の価値を想いおこしてみることも無  
駄ではないように思う。

# 名僧のありがたい言葉



えい  
樾出版社刊

定価：本体1200円+税(最寄りの書店にて直接おもとめください)

喜心

曹洞宗管長 大本山總持寺貫首

江川辰三

2

慈愛

大本山永平寺貫首

福山諦法

3

駒澤大学長谷部八朗学長インタビュー 長谷部八朗

4

毎日書道

高橋秀榮

12

作品審査

高橋秀榮

13

仏遺教経解説11

丸山劫外

14

佐々木宏幹インタビュー・第2回

佐々木宏幹

18

子どもへの「素朴なまなざし」を想う

増山均

22

表紙画／平川恒太